第12号 (1994.6)

Library Mate

就任にあたって

図書館事務部事務長　茂木　コウ

私が図書館に就職したのは昭和24年、まだ校舎のそちこちに焼夷弾の跡が残っていました。蔵書も専門学校時代のものは殆ど戦災で焼けてしまい、戦後購入したものと、有志の方々からご寄贈いただいたもの等で１万冊たらずでした。現在の蔵書数は、大学・短期大学両方合わせると40万冊ほどです。視聴覚資料も徐々に増加してまいりました。これからはこの資料群を、いかに効率よく利用者にサービスすることができるかが課題です。

ある利用者に、図書を借りるとき名前を書くのがいやだと言われました。そうなのです。これを解決するには図書館の機械化を急がなければなりません。閲覧貸出を機械処理し、端末を使って利用者が資料を探索できるようにすることが急務なのです。昨年、学術情報ネットワークに参加しましたが、まだ実践のデータベースには資料の目録データは１件も蓄積されていません。目録データの蓄積がなければ利用者が端末で資料を探すことは不可能です。これを可能にするため７月から新規受け入れ資料のデータ入力を開始し、できるだけ蓄積を多くする計画です。なお、40万冊の既所蔵資料は１冊ずつ遡及入力をしていかなければなりませんが、相当の人手と費用が必要です。私の在職中にどこまでできるかわかりませんが“やるしかない”というのが現在の心境です。図書館は利用者あっての図書館ですが、当分の間機械化実施を最優先としておりますので、不行き届きの点があるかと思います。お気付きのときはどしどしご注意下さい。気持ちよく利用できる図書館を目指して頑張ります。

還暦をすぎて女子職員の希望の星になるのはしんどいことですが、希望の星くずくらいになれるのではないかと思っております。

「出会い」ということ

英文学科教授　岡　野　治　子

日本では、60歳が人生のいわばターニングポイントであろうが、ドイツでは50歳をもって第二の人生の始まりとして、その誕生日を大々的に祝う。ドイツ留学から帰国して十数年もたつ私は、この慣習を忘れかけていた。あるとき私の誕生日の前後に、かつて経験したことのない程沢山の航空便が我が家に届いた。多くは既に第二の人生のスタートをきった年長の友人からで、祝福の言葉と共に、励ましと節目を迎えた時の感想とが添えられていた。本人が言い出さない限り、誕生日を祝う習慣のない我が家族は、私も含めて、皆本当に驚いた！　改めて確認された私の年齢と、そして何よりも私たちには真似のできない彼等の心配りにである。そうなのだ。友人、知人、上役、同僚、学生、地縁の人々、家族等々との相互関係こそが私たちの生活の毛細血管であり、それが私たちを支え、活気づけている事実は、こうした節目にこそ、特別に意識されるのだ。どの宗教にもみられる儀礼や祭りは、神（仏）と人間、或いは人間と人間との絆を再生させ、再強化するためのものに他ならない。古今東西、人間を関係存在として語らない文化圏は無かったといえる。ということは、祝祭の無い文化圏というものもまず存在しないことだろう。

多分この祝福の手紙を通して、私は「出会い」ということを意識し始めたと思う。「出会い」を過度に神秘化することは、オカルティズムになりかねず、慎まねばならないが、物理的な遭遇が、ある人の心性のなかで「出会い」として認識、昇華される過程には、多くの場合、物理的原理を超えたある力が働いているように思える。「出会い」が人生の節目を作ったのか、節目であったからこそ「出会い」を感じたのか、今は問わないでおこう。いずれにしても「出会い」といえるものが私にも人並みに恵まれたと思う。

今日の私の方向性から見て、最初の「出会い」といえるのは、具体的な人ではなく、メーテルリンクの戯曲『青い鳥』であった。小学校二年か三年の頃であったか、読書の面白さを発見し、姉の書棚でいろいろ物色したものだった。姉は15歳も年上だったので、そこに私向きの書物を見付けるのは容易ではなかった。漱石や龍之介も未だ魅力がなかった。そんな中で私は、黒い不気味な表紙の『青い鳥』に出会った。主人公のチルチルとミチルという名前に躍動感があり、妙に心惹かれたのだ。樵の子であるチルチルとミチルは、クリスマス・イヴに妖婆に頼まれ、青い鳥を捜しに、思い出の国、夜の国、死者の国、未来の国に旅をする。しかしどこにも青い鳥を見付けることができない。失意のなかで、家にもどってくるが、すべては夢であったことを知る。そして自分の家に飼っていた鳥こそが、捜し求めていた青い鳥であることを知る。ところがその鳥が逃げてしまう。幸福とは所有するものではなく、追い求めるものであるというのが、メーテルクンクのメッセージであったと思う。当時の私を捉えたのは、しかし作者の折角のメッセージではなく、死者の国を訪れたチルチルとミチルがそこで亡くなった祖父母に出会う箇所であった。再会の喜びも束の間に二人は再び出発しなくてはならない。二人は祖父母に、どのようにしてまた会えるのかを尋ねる。すると祖父母が教える。「お前たちが思い出してくれさえすればいいんだよ！」と。何かホッとした！　その頃、死というものの実感は余り無かったが、おぞましいものとは感じていたからだ。『青い鳥』を読む数年前に私の祖父が亡くなっていた。祖父の死顔に対面したとき、私は死を本当に怖いと思った。しかし『青い鳥』の中に、私なりに死を理解する鍵を見付けた気がした。そしていつか私は、死のもつ暴力性、不条理ばかりでなく生者との神秘的な共同体（祖先祭祀）の世界にも目をむけ始め、ふと気がついてみると宗教学を専攻していたのである。これからの「出会い」にも、十分心を開いていたいと思っている。

図書館と私

浅井　容子

私は、この４月から大学院家政学専攻被服学研究科に入学しましたが、３月までは被服学科の副手を勤めておりましたので、実践女子大学には通算で６年を過ごし、今年で７年目となります。

最近、受講している授業の関係で江戸後期の戯作者、十返舎一九の作品「身延道中之紀」を図書館で探す事がありました。この「身延道中之紀」はご存知の通り旅物語で、ここに書かれた“山梨県の大月という町では有名な甲斐絹（かいき）という良質の絹織物がたくさん生産されています”という文章を紹介しながら甲斐絹の歴史も調べてみました。

学部生時代、副手時代ともに専門領域の書籍や文献、旅行書、雑誌等はたびたび図書館を利用して閲覧したり、借りることがありましたが、文学書を図書館から探すという作業は７年目にして初めてで、なかなか必要に迫られなければ立ち入る機会のないところでしたし、図書館にはその人なりの利用法があるのだと思います。

そこで、現在私が頻繁に利用しているサービスは、レファレンスです。過去と、最新のホットな研究論文をなるべくたくさん読むことは、私たち学生には必須事項です。実践女子大学には納められていなくても、時間と手数料を払うことで欲しい文献が手に入る事、そして何よりも良心的に手続きをして下さる係の方にはたいへんありがたく感じています。近々日経テレコムの外部データベース検索のサービスもスタートするそうですので、大変楽しみです。

ところで、図書館の一角にある向田邦子文庫は、私にとっては文学書とは違った意味での縁遠いところです。扉が開いている様子を見たことがなく、そばを通るときには何となく寂しい感じがするのは私だけでしょうか？　これは図書館の方への提案ですが、毎月１回でも、定期的に自由に閲覧させていただけるようになれば、大先輩の功績に大勢の後輩が触れることができるのではないでしょうか。その際には、多くの利用者が利用法をよく知っていることも大切だと思います。

まだまだ図書館には私の未知のエリアが残っているような気がします。図書館の capacity をしっかり把握して、これからも最大限に合理的に利用させていただくつもりです。

（家政学研究科被服学専攻修士課程１年）

館員の横顔

ようこそ“知的”な図書館へ

みなさん、図書館を利用したことがありますか？　図書館に足を運んだことがなければ、この機会にぜひ一度利用してみて下さい。意外と図書館は便利なところなんです!!　例えば、レポート提出や卒業論文に必要な資料を探したい時などは、図書館の資料を使って簡単に調べることができるんです。図書館は、冷たくとっつきにくい印象があって、利用の仕方も面倒そうだと思っている方、安心して下さい。

そこで、登場するのが、レファレンス・カウンターです。メイン・カウンターの右側にあります。（大学図書館）

ここは、みなさんの必要な資料や情報を探すお手伝いをいるところです。カード目録の引き方や所在などわからないことがありましたら、どうぞ気軽にレファレンス・カウンターに声をかけて下さい。

私は、レファレンスの担当になり６年目になりますが、最初の頃は、はたしてみなさんの質問に満足な回答ができるだろうか。知識・経験不足から不安な気持ちで毎日送っていました。そんな時、私を勇気づけてくれたのは、一人の学生がかけてくれた言葉です。「あなたは、ここに必要な人です。がんばって下さい。」涙が自然とあふれるくらい感激した一言でした。私を支えてくれているのは、いつも利用者のみなさんです。それゆえ、今以上に、図書館が身近に感じられる雰囲気をこれからも作っていきたいと思います。どうか、みなさん図書館に来て知的な楽しさを味わってください。お待ちしています。（尚）

いんふぉーめーしょん

1994年 6 月～1994年12月

大学図書館

開館時間

月～金 9：00～18：00 土 9：00～16：00
試験期 9：00～18：45 7/1～7/19の(月～金)
夏休み期間 9：00～16：00

休館日

書庫整理日：月末の**火曜日**
夏休み期間：7/26・31 8/10～8/21 8・9月の土曜日

試験期の貸出

6/27(土)～7/19(火) 3日間貸出

夏休み特別貸出

期 間：7/20(水)～9/16(金)
返却日：9/28(水)
冊 数：大学院生・4年生 10冊
1～3年生・聴講生・短大生 5冊

卒論貸出

対 象：博士論文作成者・修士論文作成者・卒業論文作成者
受付期間：文学部・家政学部とも 10/1(土)～11/9(水)
貸出期間：貸出日から1ヶ月間
冊 数：10冊

※大学図書館では、**外部データベース**（新聞記事情報や雑誌論文情報など）がひけるようになりました。試験運用を始めています。レファレンスカウンターへお申し出ください。

短期大学図書館

開館時間

月～金 9：00～17：00 土 9：00～16：00
試験期 9：00～18：00 6/30～7/20の(月～金)
夏休み期間 9：00～16：00

休館日

書庫整理日：月末の**水曜日**
夏休み期間：7/30 8/6～22 8・9月の(月)・(土)

試験期の貸出

6/20(月)～ 1週間貸出
6/27(月)～ 3日間貸出

夏休み特別貸出

期 間：7/20(水)～9/16(金)
返却日：9/28(水)
冊 数：図書 5冊
※雑誌／カセットテープ／ビデオについては掲示でお知らせします。

短大図書館にも返却ポストが設置されました。閉館後、休館日の返却に利用してください。
ビデオテープは入れないで！

編集後記

本年4月1日付で、茂木課長が事務長に就任し、水野書記が大学図書館から短大図書館へ、城田事務部長が記念事業室部長へ、大井課長補佐が短大事務部へ異動になりました。新しく財務部から八幡課長が、短大事務部から稲永書記が図書館員に加わりました。編集委員は、浪岡、芳賀、石川、内藤です。今回『私と図書館』というテーマで、学生の執筆欄を企画しました。みなさんの遠慮ない声をぜひ図書館へ！

Library Mate 第12号 1994年6月
発行所 実践女子大学図書館
東京都日野市大坂上4－1－1
実践女子短期大学図書館
東京都日野市神明1－13－1
発行責任者 三隅治雄